



2020年8月12日

進行・再発子宮癌(子宮体癌、子宮頸癌)に対する免疫細胞治療の解析結果に関する論文が学術誌『Anticancer Research』に掲載されました。

医療法人社団澁志会 瀬田クリニックグループは、進行・再発子宮癌（子宮体癌、子宮頸癌）に対して標準治療に併用で実施した免疫細胞治療の効果を検証するための後ろ向き調査研究（過去のデータを調査・分析する研究）を行い、本研究結果をまとめた学術論文(*1)が、がん免疫分野の学術誌『Anticancer Research』に掲載されましたのでお知らせいたします。

進行・再発子宮癌（子宮体癌、子宮頸癌）は婦人科領域で頻度が高く、予後も不良であり2018年の報告では死亡率も増加していることから新たな治療の開発が期待されています。

本研究では、1999年から2015年までに瀬田クリニックグループを受診した子宮癌患者さんのうち、免疫細胞治療を6回以上受け、且つ画像診断による評価が可能な、進行・再発例187人（子宮体癌80例、子宮頸癌107例）を対象に、免疫細胞治療の治療効果について過去のデータを用いて評価・検証を行いました。

[今回確認された主な研究結果]

- 進行・再発子宮体癌では単変量解析の結果、化学療法の前治療歴がない症例や肝転移が認められない症例で予後が良好であった。また、多変量解析では化学療法の前治療歴がない症例で有意に予後が良好であった。
- 進行・再発子宮頸癌では単変量解析の結果、化学療法の前治療歴がない症例、肝転移や肺転移が認められない症例で予後良好であることがわかった。また、多変量解析では肝転移がない症例や肺転移がない症例において予後が良好であり予後規定因子となることが判明した。
- 免疫細胞治療に関連する重大な有害事象は確認されなかった。

本研究により、進行・再発子宮癌（子宮体癌、子宮頸癌）では、免疫細胞治療を行うことにより予後が改善する可能性が示唆されました。今回の結果は単施設の後ろ向き研究（過去のデータを調査・分析する研究）によって得られたものであることから、今後さらに多施設での前向き研究（試験デザインを予め決めて、治療データを集める研究）による評価・検証が必要です。

瀬田クリニックグループは今後も、臨床現場で得た最新の知見や研究結果等を速やかに治療に応用するとともに、研究成果に係る情報発信を継続することで、がん免疫細胞治療の発展に貢献してまいります。

以上

本件に関するお問い合わせ:

医療法人社団 滉志会 法人本部

東京都千代田区神田駿河台 2-1-45 ニュー駿河台 ビル 3F

TEL: 03-5860-2393 URL: <http://www.j-immunother.com/>

Email: info@j-immunother.com

(*1) Prognostic Factors for Endometrial and Cervical Cancers of Uterus Treated With Immune-cell Therapy:

A Retrospective Study

ANTICANCER RESEARCH 40: 4729-4740 (2020)

【 瀬田クリニックグループについて 】

1999年3月、免疫細胞治療の専門医療機関として「瀬田クリニック」(現:瀬田クリニック東京(東京都千代田区))を開院以来、瀬田クリニックグループ全体で22,000名を超える患者さんに治療を提供しています(2019年9月現在)。2009年に設置した臨床研究センター(現:臨床研究・治験センター)では、開院以来の治療実績から抽出した臨床データの解析に加え、大学病院、地域中核医療機関等との共同臨床研究を行い、Evidenceの強化、治療効果の更なる向上に取り組んでいます。